

한통련 뉴스레터

제40호

発行:在日韓国民民主統一連合（韓統連）

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。（メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください）

정세 情勢

●尹錫悦大統領、英米カナダ歴訪…期待はずれの「惨事外交」、批判集中・支持率低下



国連総会で演説する尹錫悦大統領

尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領は9月18日、英国女王エリザベス2世の葬儀に参加するため同国を訪問した後、米ニューヨークへ移動。20日、国連総会で就任後初の一般討論演説を行った。尹大統領はある国で個人の自由が脅威にさらされた時、共同体の構成員が連帯して脅威を取り除かなければならないと述べたうえで、「国際社会のどの国で自由が脅威にさらされても、国際社会は連帯して自由を守らなければならない」と力説した。尹大統領は国連発足後、最初の意味あるミッションは韓国を朝鮮半島唯一の合法的な政府と承認し、国連軍を派遣して韓国の自由を守ったことだったと述べたうえで、「国連の努力のおかげで現在の成長を達成した大韓民国は世界市民の自由を守るとともに、自由を広げて、平和と繁栄のために国連と共に責任を果たす」と明言した。

21日には国連総会出席のためニューヨークを訪問中の岸田文雄首相と約30分間会った。大統領府はこれを「略式会談」と発表、日本政府は会談形式ではなく「懇談」と発表した。韓日首脳会談が行われるのは中国で開催された韓中日首脳会

談にあわせて当時の文在寅（ムン・ジェイン）大統領と安倍晋三首相が会談した2019年12月以来となる。徴用被害者（徴用工）問題について、韓日外相はニューヨークでの19日の会談で、「外交当局間の建設的なやりとりを評価しつつ、協議を継続する」ことで一致した。両首脳はこの外相会談に言及して、外交当局間の協議を加速するようそれぞれ指示することを確認。尹大統領は韓国政府による解決策の検討状況について説明したとみられる。

また、尹大統領は感染症対策のための資金調達について協議するバイデン米大統領主催の会合に出席し、バイデン氏と立ち話をした。韓国大統領室関係者は記者団に「尹大統領は出席対象者ではなかったが、会合に招待された」と明らかにした。尹大統領は会合後、各国首脳が自由に会話を交わす途中、バイデン大統領と約50秒間（48秒）立ち話をした。会話の内容は明らかになっていない。尹大統領は訪米後、カナダを訪問した。

尹大統領のこうした歴訪を振り返り評価する。

尹大統領は英女王の弔問を交通事情を理由に取り消し、葬儀とレセプションにだけ参加した。弔問外交だとしながら弔問ができず、また遅く到着した参加者の中でも弔問した首脳らがあり、尹大統領と大統領室に対する「弔問バッシング」が沸き起きている。

国連総会演説では「自由」をキーワードに国連と国連を主導した米国を持ち上げた。

韓日首脳会談については、大統領室は今月中旬、国連総会に合わせた韓日首脳会談の開催に「合意した」と発表したが、日本側は韓国が会談の開催を公表したことに不快感を示すなど、両国は今回の会談が行われるまで神経戦を繰り広げた。こうしたぎくしゃくした状況を反映し、会談

の冒頭発言は公開されず、記者も同席しなかった。また、韓国が「略式会談」と表現したのに対し、日本側は「懇談」と発表。日本側が「懇談」と位置付けたのは、徴用被害者問題の解決策を韓国側が提示しない限り、正式な会談に応じないとする日本政府の強硬姿勢があらわれたもの。韓国政府は「首脳同士が会ったこと自体が重要だ」と評価に努めたが、韓国政府の前のめりの対日低姿勢は「屈辱韓日懇談」として批判を浴びている。

韓米首脳会談は、バイデン大統領がニューヨーク滞在期間を短縮したことで見送られたといわれる。韓米首脳会談が開催されれば、米国の「インフレ抑制法」による韓国製電気自動車（EV）の差別問題が取り上げられることが強く期待されていた。48秒の立ち話では、懸案に触れることは到底不可能。EV差別問題の解決は遠のいた。

また、尹大統領がバイデン大統領主催の会合に出席後、朴振（パク・ジン）外相らと一緒に歩きながら、「議会でこの野郎どもが承認してあげなかったら、バイデンが赤っ恥だ」と、低俗な言い方で話したように聞こえる映像がカメラに捉えら

れ、物議を醸している。

「共に民主党」などの野党は、弔問問題と期待はずれの韓米・韓日首脳「会談」をあげて、尹大統領の外交力を批判、「外交惨事」だと政権への攻勢を強めるとともに、尹大統領の「低俗発言」に「驚がくを禁じ得ない」とした。尹大統領は帰国後、メディアと野党を攻撃することで、こうした批判をかわそうと懸命だ。

世論調査会社の韓国ギャラップが23日発表した調査結果によると、尹大統領の支持率は再び28%と20%台に下落、不支持率は61%となり、拙速計画で批判され撤回した「大統領執務室の移転・迎賓館問題」とあわせて尹大統領歴訪への批判的反応が示された。

外交、特に対米・対日における自主性の欠如が混乱を生み、いわゆる「国格」をき損する「外交惨事」を引き起こした。また、尹大統領が主張する専門（政治）家を使う「管理型政治」もまったく機能せず、「外交惨事」の原因をなしている。外交だけでなく内政でも成果があがらない尹政権。国民の不満と不信は増大するばかりだ。

●【記事紹介】 全国民衆行動、米原子力空母の釜山入港に反対し記者会見

統一ニュース 2022.09.22

全国民衆行動は9月22日、ソウルの米大使館前で「米原子力空母の釜山入港反対！ 米戦略資産の朝鮮半島での展開反対！ 記者会見」を開催した。

記者会見文を紹介する。

記者会見文

戦争の危機を高める米原子力空母の朝鮮半島への入港に反対する！

23日、米原子力空母「ドナルド・レーガン」（CVN-76）を含む空母打撃群が釜山に入港し、今月末に東海（日本海）で韓米合同軍演習を展開する。また、米原潜「アナポリス」（SSN-760）まで今回の演習に参加すると報道されている。われわれはこれらを断固として拒否する。

16日に行われた韓米拡張抑止戦略協議体（EDSCG）では、レーガン空母打撃群の域内展開が戦略資産の時期適切で効果的なものであるとの約束を明確に示したと強調、米国は続けて戦略爆撃機、偵察機などを出撃させて、朝鮮半島と周辺の軍事的緊張を高めている。

2018年6月、「平和繁栄の新しい朝米関係」に合意した「朝米シンガポール宣言」が翌年、米国の一方的な破綻策動により霧散した直後から、米国は対北敵視政策をさらに推し進めてき

た。「無条件で対話」を口にしながらも、核先制攻撃戦争計画による韓米合同軍事演習の強度を高め、北の首脳部に対する斬首作戦に沿った演習も随時強行してきた。

尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権登場直後から、日本まで引き入れて韓米日軍事同盟に拍車をかけており、そのために韓国政府に対し無条件の韓日関係改善を強要している。最近、尹政権が日本の高姿勢にもかかわらず、屈辱的な韓日合意に乗り出している理由だ。

米軍は細菌実験室を全国の在韓米軍基地に拡大し、反北団体は対北宣伝ビラ散布に血眼だ。境界地域住民は、こうした状況から局地戦が発生しないかと不安に震えているのに、星州サード（※高高度ミサイル防衛システム）基地では、臨時配置されたサードを「正常化」するとの美名の下に、事実上「基地の永久化」に乗り出しながら、地域住民と平和を守る勢力を戦争のような状況に追い込んでいる。米国の新冷戦強要によるウクライナ戦争と台湾危機などで世界が激動する中、尹政権登場と共に朝鮮半島の戦争の危機も比べようもなく高まった。

戦争の危機の中心に立つ現在、米原子力空母レーガンがすぐ明日に釜山に入港、韓米合同軍事演習を繰り広げるのは、朝鮮半島の軍事緊張を高める非常に危険なことだ。2017年の朝鮮半島における厳しい戦争の危機から5年ぶりだ。米国の核戦力が朝鮮半島に再進入する瞬間、情勢がどこへ進むのか予測しがたい。

韓米当局はいまからでも対北敵視政策を撤回し、朝鮮半島の戦争の危険を高めるすべてを根源的に除去しなければならない。当面して、尹政権は米国の核戦力を朝鮮半島に引き入れる原子力空母の入港計画を撤回し、また、日本を朝鮮半島に引き入れる韓米日軍事協力と屈辱的な韓日関係改善の試みも即時中止すべきだ。

「わが民族の運命はわれわれ自ら決定する」との民族自主と民族自決の原則により、民族の団結した力で平和と繁栄、統一の未来をわれわれ自らが開いていかなければならない。全国民衆行動はそのために全力を尽くす。

戦争の危機を高める米国の原子力空母の朝鮮半島への入港に反対する！

米国の戦略資産の朝鮮半島での展開に反対する！

戦争の危機を高める対北敵視政策を撤回しろ！

米国に無条件で追従する尹錫悦政権を糾弾する！

2022年9月22日

全国民衆行動

原文

<https://www.tongilnews.com/news/articleView.html?idxno=206218>

활동보고 活動報告

●大阪本部が「ウリ現代史」セミナーを開催・・・朴正熙政権時代を学習



金昌範副代表委員の講演

韓統連大阪本部は9月11日、大阪市生野区のKCC会館で「韓統連セミナー2022 シリーズ『ウリ現代史』」の第2回「統一か基地国家か（1960年～65年）」を開催した。

金隆司（キム・ユンサ）代表委員が主催者挨拶。「韓統連セミナーは参加者と共に学び、共有する場。積極的に意見交換をしていこう」と語った。金昌五（キム・チャンオ）副代表委員が光復

77周年韓統連・韓青母国訪問団事業（8/12～14）を報告。映像を活用しながら、13日にソウルで開かれた「自主平和統一大会」への参加など、3年ぶりの母国訪問で勝ち取った成果を参加者全体で共有した。

金昌範（キム・チャンボム）副代表委員が「統一か基地国家か」をテーマに講演。金副代表委員は△4・19革命に至る背景とその後の民衆運動の発展△5・16軍事クーデターと朴正熙（パク・チョンヒ）の人物像について解説。1965年の韓日条約締結については「植民地支配の責任問題、賠償問題をはじめ玉虫色の決着であり、米国の影響によるアジアの反共軍事態勢の再編へと進み、民衆不在の決着だった」と語った。

講演終了後、質疑応答が行われ、10月15日に開かれる「韓国サンケン電気争議報告関西集会」のアピールが行われた。

●各地で朝日ピョンヤン宣言20周年行事を開催・・・日本政府に対し宣言履行を要求

【大阪集会】



康宗憲代表の講演

朝日ピョンヤン宣言発表から20年を迎え、日朝市民連帯・大阪が9月16日、大阪市内のエルおおさかで「日朝ピョンヤン宣言から20年 日朝国交正常化の早期実現を求める大阪集会」を開催した。

日朝市民連帯・大阪の大野進共同代表が主催者挨拶。「日朝ピョンヤン宣言が発表されて20年が経過するが、そのほとんどが実現されていない。とても重要な宣言なので必ず実現させよう」と語った。

韓国問題研究所の康宗憲（カン・ジョンホン）

代表が「日朝関係の現状と課題について」と題し講演。康代表は朝鮮半島情勢について「朝鮮では『制裁の解除』から『制裁との共存（自力更生・自給自足）』へと政策を転換させ、国内経済は安定している」と指摘。韓国の尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権については「朝鮮を主敵と見なし、親米・親日政策が基本」と解説した。日朝ピョン

ヤン宣言については「根本問題（植民地支配の歴史清算）と懸案問題（日本の安全保障）の同時推進が核心だ」と述べ、自らの獄中体験を振り返りながら「粘り強く運動を進めれば、必ず日朝国交正常化は実現できる」と語った。

岸田首相宛の要請文が確認され、日朝市民連帯・大阪の長崎由美子共同代表が閉会挨拶した。

【愛知集会】



有田氏の報告

「なぜ日朝交渉は進まないのか 今こそ日朝国交正常化の再開を」求める集会が9月17日、名古屋市内の栄ガスビルで開催された。主催は韓統連愛知本部などで構成された同実行委員会。

主催者挨拶に続き、有田芳生前参議院議員が「拉致問題はなぜ解決しないのか」と題し報告。20年に及ぶ日朝間の交渉の成果と問題が語られ

た。有田氏は「20年前には日朝の担当者が秘密裡に水面下の交渉を幾度となく行い、日朝ピョンヤン宣言にまで結びつけた。また2014年のストックホルム宣言で拉致問題も含め日朝間の懸案事項を解決しようと合意され、朝鮮からは田中実氏、金田龍光氏がピョンヤンで生存しているとの情報が伝達された。しかし安倍政権はその情報を隠し解決の機会をつぶし、交渉を断絶。結局安倍政権は口では『拉致問題は安倍政権の一丁目一番地』と言いながら、拉致問題を政権浮揚に利用しただけだった」と指摘。日朝交渉に関しては「交渉を進めるためには粘り強く交渉を行うしかなく、政府レベル、超党派でも解決のための行動を起こす必要がある」と語った。

岸田総理、林外務大臣へ送る「今こそ日朝国交正常化交渉の再開を求める署名」運動を行動提起した。

●横須賀で反基地反戦平和を訴える月例デモ…宋委員長がアピール



アピールする宋世一委員長

非核市民宣言運動・ヨコスカ／ヨコスカ平和船団が主催する月例デモが9月25日、横須賀市内で開催された。参加した韓統連の宋世一（ソン・セイル）委員長は、12日に母港・米海軍横須賀基地を出港した原子力空母ドナルド・レーガンを軸とする空母打撃群は日米共同演習を経て、23日に釜山作戦基地に入港、今月末に東海（日本海）で韓米合同演習を行うと報告した上で、「今回のレーガン釜山入港は米戦略資産を朝鮮半島で適時展開することを含めて韓米同盟の抑止体制を強化することを目的としており、こうした動きが朝鮮半島の戦争の危機を高め東アジアの平和を脅かしている」と指摘、横須賀の反基地運動との連帯が重要だとアピールした。

米軍基地の町・横須賀で非核と反基地反戦平和

を市民に訴える月例デモは1976年2月に開始し、2022年7月の月例デモで565回目を迎えた。この間、コロナ禍で中止もあったが、粘り強く継続されてきた。



非核市民宣言運動・ヨコスカでは、ニュースレター「たより」に連載したインタビューをまとめた「基地の街 横須賀 月例デモのひと」を7月31日に発行した。宋委員長のインタビューも掲載されています。

問い合わせ先：非核市民宣言運動・ヨコスカ ヨコスカ平和船団
TEL/FAX 046-825-0157

●神奈川本部が8・15母国訪問団報告会を開催・・・訪問団の成果を共有



訪問団の成果を語る文世賢代表委員

韓統連神奈川本部は9月25日、川崎市内のミューザ川崎で「光復77周年韓統連・韓青母国訪問団報告会」を開催した。

主催者を代表し神奈川本部の文世賢（ムン・セヒョン）代表委員が挨拶。「今回の訪問団では韓国の自主統一勢力と再び繋がり、大きな成果を勝ち取ることができた」と語った。李俊一（イ・チュニル）総務部長が情勢報告。現在の朝鮮半島情勢について解説した。李部長は尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権について「情勢をまともに見

ず、米国にいたずらに追従し自ら米中対決に巻き込まれようとしている。8・15大会で確認されたとおり、私たちも韓国の民衆とともに危険な韓米日の軍事行動に反対していかなければならない」と強調した。

母国訪問団事業の動画を鑑賞後、李部長が報告。青年学生の行動については韓青中央本部の韓成祐（ハン・ソンウ）委員長が報告し、成果を全体で共有した。訪問団参加者である李香代子（イ・ハンデジャ）氏は訪問団を振り返り「PCR検査など大変なこともあったが、韓国の民衆に韓統連訪問団が歓迎されたことがとてもうれしく、大きな勇気をもたらした。私たちが運動の主体であることを再度確認することができた」と語った。

韓委員長が閉会あいさつ。「国内青年との連帯を強化し、統一運動を牽引していく」と語った。

●韓青生野北支部が学習会を開催・・・差別問題について意見交換



学習会の様子

韓青生野北支部は9月25日、東成区民センターで学習会「差別・偏見の原因とその構造について」を開催した。

金和容（キム・ファヨン）生野北支部委員長が報告。自身の体験も含めた差別・偏見の事例をあげ、差別・偏見が起こる構造を解説した。差別解決にむけての方策を参加者全体で論議。ヘイトクライムや学校現場での差別や人権についての教育の実態、インターネット上の差別・偏見表現について意見交換した。

金委員長は学習会を振り返り「自分が差別に直面したときは怒りを感じた。差別をなくすための課題を考えるため学習会を企画したが、今回は組織外にもよびかけ、関心のある方が参加してくれた。するどい質問が多く、関心の高さが伺えた。今後も継続して企画していきたい」と語った。

행사예정 行事予定

10月

ハナ・マダンあまがさきプレイベント(兵庫)

日時: 10月22日(土) 午後7時～ 場所: 立花南生涯学習プラザ 内容: 「朝鮮半島の自主的統一へ向けた現状と展望について」(講師-金志永(キム・ジヨン) 朝鮮新報社編集局長) 主催: ハナ・マダンあ

まがさき実行委員会 連絡先: 090-1242-3981 (李)

韓統連セミナー(大阪)

日時: 10月23日(日) 午後1時 場所: KCC会館 内容: シリーズ「ウリ現代史」第3回「1980. 5. 18光州民衆抗争」(講師-金隆司(キム・ユンサ) 韓統連大阪本部代表委員) 主催: 韓統連大

阪本部 連絡先: 090-3822-5723 (崔)

編集後記

先日、在日同胞の差別問題を扱った映画「差別」を鑑賞しました。朝鮮学校の高校無償化裁判が多く描かれていましたが、裁判に敗訴し涙する学生たちの姿を見るととても胸が痛み、あらためて差別に対する怒りが湧いてきました。機会があればぜひ御覧ください(李)